



YUMESHIN



夢

真



株式会社 夢真ホールディングス

第33期株主通信

2010年10月1日 ▶ 2011年9月30日

<http://www.yumeshin.co.jp/>

[証券コード:2362]

人と人とのめぐり合いで みんなの夢を真にする会社

当社の社名「夢真」には、読んで字のごとく、「夢を真（まこと）にする」という意味が込められています。人と人とは他人に思えても必ずどこかで繋がっています。人と人がめぐり合うことで道は開け、可能性は無限に広がっていきます。当社は、株主さま、お客さま、従業員、そして夢真グループにかかわるすべてのの方々の可能性を追求し、その夢を真にすることをミッションと考えています。

株主さまとともに

透明性のある企業経営を実践し、健全な成長・安定した還元に努めます。

従業員とともに

独自の研修プログラムで、ひとりひとりの成長を援助します。

お客さまとともに

必要な時に・必要な人数・必要な場所に・必要なスキルを持った人材を提供します。

社会とともに

新卒・若手の人材を積極的に採用し雇用の創造に努めます。

夢真ホールディングスグループの事業領域



株夢テクノロジー
エンジニア派遣事業



株式会社夢真ホールディングス
建築技術者派遣事業



株我喜大笑
子育て支援事業



株夢真メディカルサポート
医療介護支援事業

株ユニテックソフト
エンジニア派遣事業

「高付加価値の人材派遣」をテーマに さらなる成長を目指します

代表取締役会長兼社長 佐藤 真吾



建築技術者派遣の事業環境について教えてください。

当社は、人材ビジネスを事業領域とする株式上場企業の中で、建設業界に特化して事業を展開する唯一の存在です。建設業界はかつての高度成長期に、需要の増加に対応するために正社員を大量に採用しながら、業容を拡大してきました。しかし、バブル経済の崩壊後は一転して受注の減少に苦しみ、新規採用を抑えてきたという経緯があります。社員の雇用を維持するためには仕方がなかったのかも知れませんが、現在、いわゆる団塊の世代層が定年退職を迎え、人材が激減しているのが実態です。成熟産業的なイメージの強い建設業界では、就業者の高齢化と人手不足、特に若手就業者の不足が深刻な問題となっています。こうした建設業界の構造的な問題の解決策として、建築技術者のアウトソーシングへのニーズが拡大しています。一方で、大手の総合人材派遣会社には、建設業界へ技術者を派遣するための実績もノウハウも乏

しく、とりわけマッチングできる人材の確保ができていないため、建設業界からの要請に十分に答えることは困難な状況です。

そうした環境下で御社の発揮する強みは何ですか。

これまで、人材ビジネスが急成長した時期に、建設業界をコアな領域に据える派遣会社はほとんどありませんでした。当社は創業以来約30年間、建設業界でビジネスを行ってきましたので、様々なノウハウを蓄積しています。1990年、「株式会社夢真」への商号変更と前後して、業務請負事業を開始し、翌1991年には建築技術者派遣を本格化しました。このように早い時期から建設業界のアウトソーシング業務を推進してきたことで当社は、業界内で確固たる基盤を築いています。現在、当社の仕事は大手建設会社が手がける案件に、技術者を派遣する業務が中心です。一つの現場はだいたい6ヶ月くらいの期間なので、どこに、いつ、どのようなスキルの人

材を派遣するかという機動的なオペレーションが重要で
す。このノウハウや人材の確保は、他社には真似のでき
ない強みだと思っています。当社が派遣する人材は、当
社が正社員として採用して教育を施したうえで現場に送
り込み、また、現場におけるOJT（オン・ザ・ジョブ・
トレーニング）でさらに高いスキルを身につけています。
しかも、若い社員が多い。お客様であるゼネコン（総合
建設会社）の必要とする人材と、まさにマッチしている
と言えます。

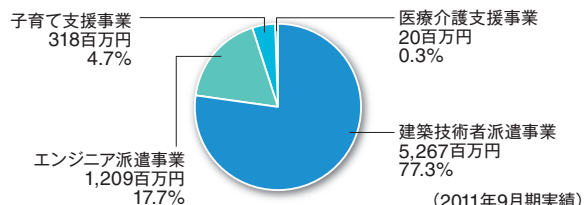
2011年9月期の業績はいかがでしたでしょうか。

2011年9月期末時点での建設技術者数は893名と、
前期末の745名と比較し、約20%の増加となりました。
新設マンション着工戸数の緩やかな回復や東日本大震災
の影響による、補修工事・耐震補強工事・地盤改良工事
等の新たな需要の顕在化などにより建設現場が増加した
ことに加え、積極的な営業展開が功を奏し、当社技術者
の平均稼働率は97.2%と、ほぼフル稼働の状態が続きま
した。さらに、2011年に新たに子会社化したグループ
企業の実績も一部加わり、2011年9月期の売上高は、
前年比40.2%増の6,816百万円となりました。当期純利



益は、買収した当該子会社の特別損失を計上したことな
どにより、前期比76.3%減の102百万円となりました。

▼ セグメント別売上高構成比



2011年9月期には2件のM&A案件がありました。現状と今後の見通しについて教えてください。

2011年1月にシステムエンジニア派遣事業を営む株
式会社ユニテックソフトを、また、5月には自動車・電
気機器・半導体の各分野へのエンジニア派遣を行う株式
会社夢テクノロジー（旧株式会社フルキャストテクノロ
ジー:大証ジャスダック市場上場）を子会社化しました。

当社グループは、「高付加価値の人材派遣事業」を特
徴として、高い技能を有した技術者を提供することで社
会に貢献することを経営の基本方針としています。この
基本方針をさらに追求・拡大し、建築技術者派遣事業と
並ぶ新たな収益の柱を育てることを、中長期的な目標に
掲げています。今後は、グループとして顧客情報や技術
者情報の共有化等により営業効率を高めるとともに営業
力を強化して、顧客層や業務内容の裾野拡大を推し進め
てまいります。また、コスト管理を徹底した組織体制を
構築し、早期の収益寄与を予定しています。

厚労省から事業再構築計画の認定を得ましたが。

当社は、M&Aで子会社化した株式会社夢テクノロジー
の事業再構築に関して、「産業活力の再生及び産業活動

の革新に関する特別措置法」に基づく事業再構築計画を厚生労働省に申請し、2011年9月に認定されました。本来、製造業の大手企業を対象にしたものが主流でしたが、事業計画の意義と当社の財務内容の健全性が認められ、人材派遣業界では初めて認定されました。計画に必要な資金の調達に関して、簡単に申し上げれば、その半分を国が保証してくれるという制度です。夢テクノロジーの主要顧客層である自動車や電気産業は、東日本大震災の影響等により一時的に需要が減退したものの、日本経済の成長を支える主要な産業であり、戦略的な人材の需要が早期に回復するものと見込まれます。そうした需要にタイムリーに対応するには、エンジニアを適正規模雇用していくことが必要不可欠であり、そのための機動的な資金調達が可能となりました。

2012年9月期の業績見通しについてはいかがでしょうか。

建築技術者派遣事業については、営業力の強化による顧客層の拡大とともに、派遣単価の上昇を図ります。また、ホームページの刷新やSNS（ソーシャル・ネットワーキングサービス）の活用、採用拠点の増設など、技術者の採用を徹底的に強化します。夢真グループとしては、夢テクノロジーが年間を通して業績に貢献してくるとともに、グループ会社すべてが黒字化する見通しです。

この結果、2012年9月期の通期連結業績は、売上高11,000百万円（前期比61.4%増）、営業利益1,250百万円（前期比130.3%増）、経常利益1,350百万円（前期比199.1%増）、当期純利益700百万円（前期比584.7%増）を見込んでいます。

最後に株主様へのメッセージをお願いします。

当社は設立から30年を超える企業ではありますが、



若い技術者が多く、どちらかと言うとベンチャー企業のように社内は活気に溢れています。これからもさらなる成長を目指して、人材派遣業を中核に、積極的な事業展開を図ってまいります。

この業界は、規模の大きさがメリットにつながるため、今後もM&Aについては実施してまいります。単純な事業の拡大を目的とするのではなく、成長するための手段としてM&Aを使うことが重要であると考えています。当社は人材派遣事業で成長してきましたし、このビジネスを十分に理解しています。人材派遣に関連のないM&Aはやりません。あくまでも「高付加価値の人材派遣事業」をテーマにM&Aを展開し、株式価値を高めるよう邁進してまいります。

また、株主様への利益還元を重要課題の一つに位置づけ、自己株の買付を継続するとともに、配当性向30%を目標としています。2012年9月期には、一株当たりの配当金を2円から3円に増配する予定です。

今後とも株主の皆様には、ご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

技術者不足が深刻化 復興視野に採用強化

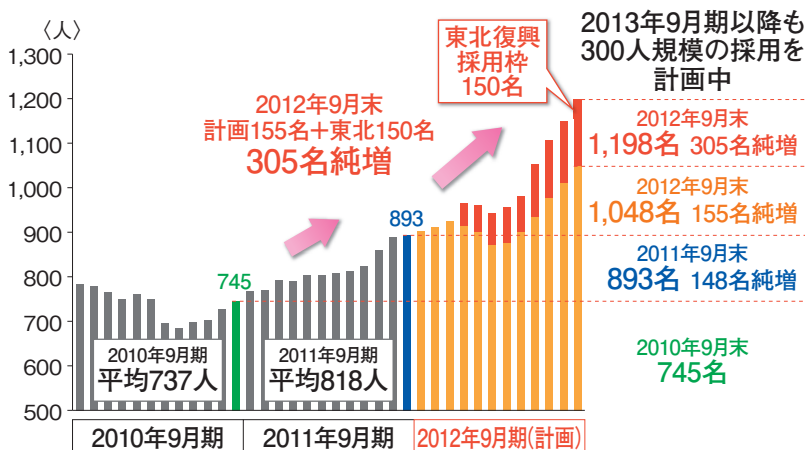
建設業界の現状は、公共事業の大幅な減少や、それともなうゼネコン間の競争激化等により、継続的に収益が低迷する状況となっています。そうした中で、建設業界では人材の採用を控え、施工管理技術者はアウトソーシングを活用する傾向が拡大しています。

また直近では、首都圏で住宅ローン減税を要因とした新設マンション着工戸数の増加や、東日本大震災の影響で首都圏の技術者が東北地方に大量に投入されたことで、首都圏の建築技術者の需給が逼迫する状況となっています。東北復興が本格化してくる来年春以降は、さらにその需要は旺盛となり、建築技術者へのニーズは一段と高まることが予想されます。

そこで当社としましては、2012年9月期は当初、建築技術者を155名純増させる計画でしたが、東北復興採用枠として150名採用を追加し305名純増の計画を立てました。建築技術者の稼働率は当年7月頃から100%のフル稼働となっており、さらに建築技術者の不足は今後も構造的に拡大するものと見込まれることから、技術者の採用強化が、当社の売上・利益の成長に直結してまいります。

■採用専用サロン“夢探索カフェ”オープン

人材の採用強化を経営戦略の第一に掲げ、採用部門の拡充を進める当社は、具体策としてホームページの刷新やSNS（ソーシャル・ネットワーキングサービス）の活用、採用拠点の増設等に注力しています。さらに2011年12月下旬には、東京都渋谷駅近くに、採用専用サロン“夢探索カフェ「ゆめたん」”を開業いたします。全国からアクセスしやすい場所に、採用専用施設を設けることにより、より多くの方々に当社の経営理念である「仕事を通じて夢を真にする喜び」を実感していただくためのサポートを提供することが可能となります。今後の建設業界を牽引していく人材と出会うことを楽しみにしております。



各月末技術者数の推移と計画



求職者の夢を見つける
“夢探索カフェ「ゆめたん」”

株式会社夢テクノロジーをグループに加え新たな収益の柱に

夢真グループは、「高付加価値の技術者派遣」を最大の強みとし、これをさらに追求・拡大することを目指しています。現在、建設現場への施工管理技術者派遣を主力事業として事業を展開していますが、この建築技術者派遣事業と並ぶ新たな事業の柱として、エンジニア派遣事業の早期の拡充に注力しています。

こうした状況下、2011年5月31日、自動車、電気機器、半導体の各産業分野でエンジニアの人材派遣を営む株式会社夢テクノロジーを、エンジニア派遣事業の中核企業として子会社化しました。

同社の主要取引先である国内製造業各社が円高等の影響によって厳しい収益環境にあり、同社にとっても厳しい市場環境にありますが、当社グループに加わることで、当社のノウハウを活かして営業力の強化に努め、また、営業所の一体化など販管費の圧縮を進めてまいります。人材面でも、厚労省から認定された事業再構築計画に基づいて資金調達を実施し、お客様のニーズに対応したエンジニアの採用を強化してまいります。



ホームページ
<http://www.yume-tec.co.jp/>

【会社概要】

商号	株式会社夢テクノロジー（旧株式会社フルキャストテクノロジーより2011年7月1日商号変更）
事業内容	エンジニアアウトソーシング事業、ビジネスソリューション事業他
設立	1989年7月
資本金	863百万円（2011年9月30日現在）
上場証券取引所	大阪証券取引所（JASDAQスタンダード市場）
証券コード	2458

個人投資家向けIR説明会を積極的に実施

当社は、IR活動を経営上の最重要項目の一つとして位置づけ、株式価値の向上に努めています。当期におきましては、日本証券新聞主催の個人投資家向け説明会に積極的に参加し、日本各地で5回のIR説明会を実施しました。いずれの会場も満席で熱気に満ち、多くの個人投資家の皆様に当社の事業展開や今後の見通しについてお伝えすることができました。

（日本証券新聞主催個人投資家向けIR説明会実施実績：2011年6月13日(月)名古屋、同7月15日(金)札幌、同8月9日(火)大阪、同11月14日(月)熊本、同11月25日(金)札幌）



熱気に満ちた説明会会場

連結財務諸表 (要旨)

連結貸借対照表

(単位:千円)

区分	当期 2011年9月30日現在	前期 2010年9月30日現在
【資産の部】		
流動資産	3,916,946	3,027,254
固定資産	2,712,703	2,054,843
有形固定資産	1,387,516	1,230,333
無形固定資産	759,009	36,497
投資その他の資産	566,177	788,012
資産合計	6,629,650	5,082,098
【負債の部】		
流動負債	3,400,228	1,101,623
固定負債	1,472,177	2,024,231
負債合計	4,872,406	3,125,854
【純資産の部】		
株主資本	1,572,374	1,990,362
資本金	805,147	805,147
資本剰余金	867,545	867,545
利益剰余金	1,669,909	1,692,961
自己株式	△ 1,770,226	△ 1,375,291
その他の包括利益累計額	△ 11,594	△ 35,919
その他有価証券評価差額金	△ 11,594	△ 35,919
新株予約権	3,142	—
少数株主持分	193,321	1,799
純資産合計	1,757,243	1,956,243
負債純資産合計	6,629,650	5,082,098

連結損益計算書

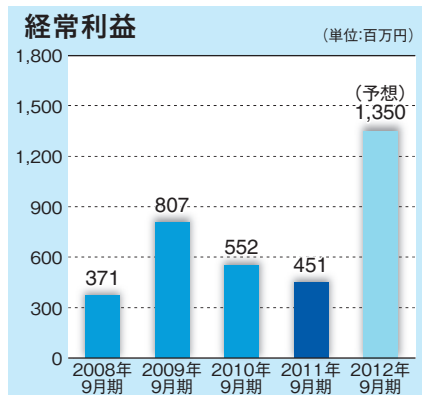
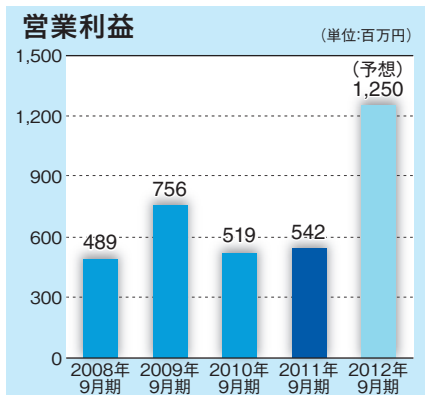
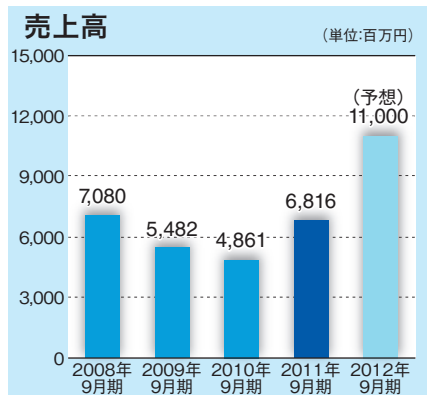
(単位:千円)

区分	当期 自 2010年10月1日 至 2011年9月30日	前期 自 2009年10月1日 至 2010年9月30日
売上高	6,816,914	4,861,745
売上原価	4,917,519	3,371,384
売上総利益	1,899,394	1,490,360
販売費及び一般管理費	1,356,624	970,425
営業利益	542,770	519,934
営業外収益	232,188	184,568
営業外費用	323,666	152,407
経常利益	451,292	552,095
特別利益	7,070	84,037
特別損失	144,625	149,845
税金等調整前当期純利益	313,736	486,286
法人税、住民税及び事業税	101,273	1,217
法人税等調整額	117,346	76,808
少数株主損益調整前当期純利益	95,116	—
少数株主損失(△)	△ 7,119	△ 22,628
当期純利益	102,235	430,889

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

区分	当期 自 2010年10月1日 至 2011年9月30日	前期 自 2009年10月1日 至 2010年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	528,025	557,866
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 409,117	△ 497,889
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,732	△ 177,706
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 368	△ 1,757
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	122,272	△ 119,486
現金及び現金同等物の期首残高	1,341,573	1,461,059
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	70,900	—
現金及び現金同等物の期末残高	1,534,745	1,341,573



連結株主資本等変動計算書 (当期:自 2010年10月1日 至 2011年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前期末残高	805,147	867,545	1,692,961	△ 1,375,291	1,990,362
当期変動額					
連結範囲の変動			△ 2,792		△ 2,792
剰余金の配当			△ 122,495		△ 122,495
当期純利益			102,235		102,235
自己株式の取得				△ 394,935	△ 394,935
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	△ 23,052	△ 394,935	△ 417,989
当期末残高	805,147	867,545	1,669,909	△ 1,770,226	1,572,374

	その他の包括利益累計額		新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括 利益累計額合計			
前期末残高	△ 35,919	△ 35,919	—	1,799	1,956,243
当期変動額					
連結範囲の変動					△ 2,792
剰余金の配当					△ 122,495
当期純利益					102,235
自己株式の取得					△ 394,935
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	24,324	24,324	3,142	191,521	218,988
当期変動額合計	24,324	24,324	3,142	191,521	△ 198,999
当期末残高	△ 11,594	△ 11,594	3,142	193,321	1,757,243

売上高・当期純利益

新設マンション着工戸数の緩やかな回復や東日本大震災後の首都圏近郊における補修工事・補強工事の増加等により、売上高は前期比40.2%増の6,816百万円となりました。また、2011年5月31日付にて子会社化した株式会社夢テクノロジーで、特別損失58百万円が発生しました影響で、当期純利益は102百万円となりました。

資産

総資産の残高は、前期末に比べて1,547百万円増加し、6,629百万円となりました。これは主に現金及び預金の増加284百万円、売掛金及び受取手形の増加704百万円、のれんの増加686百万円等によるものです。

負債

負債の残高は、前期末に比べて1,746百万円増加し、4,872百万円となりました。これは主に社債の増加740百万円、退職給付引当金の増加266百万円、未払費用の増加259百万円等によるものです。

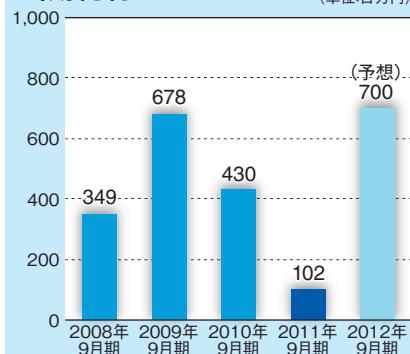
純資産

純資産の残高は、前期末に比べて199百万円減少し、1,757百万円となりました。これは主に当期純利益102百万円、少数株主持分の増加191百万円、自己株式の取得394百万円等によるものです。

※ 株式会社ユニテックソフト、株式会社夢テクノロジーにつきましては、みなし取得日をそれぞれ2011年1月1日、2011年6月30日として連結の範囲に含めております。

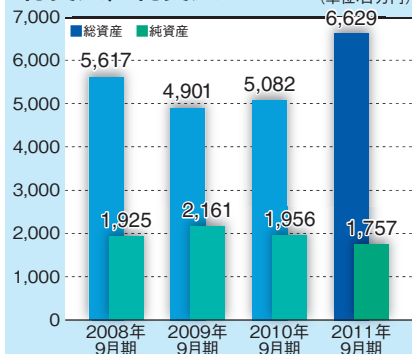
当期純利益

(単位:百万円)



総資産／純資産

(単位:百万円)



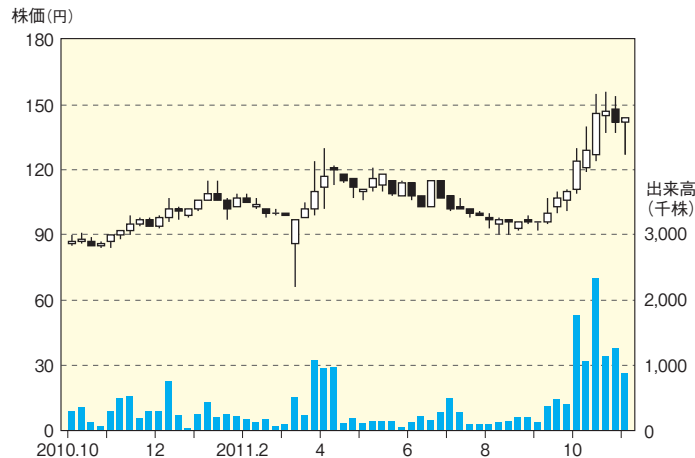
- 発行可能株式総数 160,000,000株
- 発行済株式総数 74,573,440株
- 株主数 2,170名

■ 大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
佐藤 眞吾	26,259	35.21
投資事業有限責任組合 DRCI	5,653	7.58
有限会社佐藤総合企画	5,154	6.91
佐藤 淑子	3,328	4.46
深井 英樹	1,153	1.55
壬生 勇次	952	1.28
THE BANK OF NEW YORK, NON-TREATY JASDEC ACCOUNT	886	1.19
株式会社SBI証券	680	0.91
佐藤 幹雄	520	0.70
大阪証券金融株式会社	394	0.53

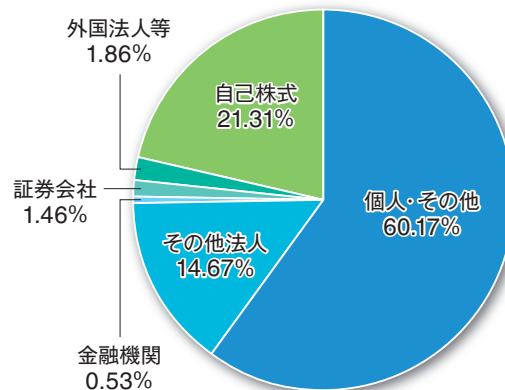
(注) 上記のほか、自己株式が15,891千株(発行済株式総数の21.31%)あります。

■ 株価の推移

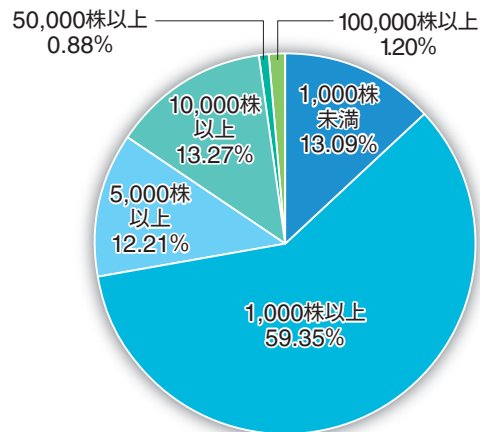


■ 株主分布状況

所有者別分布状況



所有株数別分布状況



社名	株式会社 夢真ホールディングス
本社	東京都文京区大塚3-11-6 大塚三丁目ビル
設立	1980年1月
代表者	佐藤 真吾
資本金	8億514万円
従業員数	連：1,883名、単：994名
事業内容	建築技術者派遣事業 エンジニア派遣事業 子育て支援事業 医療介護支援事業

上場証券取引所	大阪証券取引所 (JASDAQスタンダード市場)
証券コード	2362
役員	
代表取締役会長兼社長	佐藤 真吾
取締役	矢島 英一
取締役	佐藤 大央
常勤監査役	高橋 宏文
監査役	松本 幸夫
監査役	六川 浩明

ホームページのご紹介

当社ホームページをリニューアルしました。今後とも株主さまをはじめ、当社ホームページをご利用いただく皆さまにご満足いただけますよう、内容の向上に努めてまいります。



ホームページ

<http://www.yumeshin.co.jp/>

IRカレンダー (2011年4月1日～2012年3月31日)

2011年 4月27日	2011年9月期 第2四半期決算発表
5月27日	2011年9月期 第2四半期機関投資家向け決算説明会
6月13日	個人投資家向けIR説明会 (名古屋)
7月15日	個人投資家向けIR説明会 (札幌)
7月29日	2011年9月期 第3四半期決算発表
8月 9日	個人投資家向けIR説明会 (大阪)
10月31日	2011年9月期 決算発表
11月 8日	2011年9月期 機関投資家向け決算説明会
11月14日	個人投資家向けIR説明会 (熊本)
11月25日	個人投資家向けIR説明会 (札幌)
12月15日	第33回定時株主総会
2012年 1月末頃	2012年9月期 第1四半期決算発表予定

株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日
定時株主総会	毎年10月1日から3カ月以内に開催
基準日	定時株主総会：毎年9月30日 期末配当金：毎年9月30日 中間配当金：毎年3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	1,000株
証券コード	2362

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社あてにお願いいたします。

証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 (通話料無料)	フリーダイヤル 0120-176-417 (平日 9:00～17:00 / 土・日・祝 休)
公告の方法	当社のホームページに掲載します。(http://www.yumeshin.co.jp/)ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載します。

株式会社夢真ホールディングス

〒112-0012 東京都文京区大塚3-11-6大塚三丁目ビル



古紙配合率70%の再生紙を使用しています

